



学校通信

令和7年 9月 1日
東京都立葛飾盲学校長
竹内 大吾
(第5号)

「盲学校の伝統を継承すること」と

校長 竹内 大吾

夏休みが明け、本日から二学期が始まりました。この夏に話題となった出来事の一つに、歌舞伎を題材にした映画「国宝」が公開から2カ月余りで興行収入100億円を超える大ヒットとなったことがあります。この映画の題材となった人間国宝は、伝統的な芸能などの無形文化財を高度に会得している人物を認定することで、その技術の向上や後継者の育成を支援し、伝統を次世代に継承することを目的としています。

さて、学校経営計画に記載いたしましたとおり、7月31日(木)、8月1日(金)に、本校を筆頭主管校として、他の都立盲学校とともに、第100回全日本盲学校教育研究大会・東京大会を運営・開催いたしました。当日は、東京都を含めた全国の盲学校教員、視覚障害教育関係者が計400名以上参加し、各校の実践の発表などが行われました。

この大会は、戦時中の中断を除けば、大正12年の第1回大会から第100回大会まで、100年以上に渡り、毎年開催されている伝統ある大会であります。年に1回ではありますが、盲学校の教員にとっては、長い歴史の中で積み重ねられた先人たちの知見や全国の盲学校の実践を学び、視覚障害教育の専門性を高め合う貴重な機会となっております。私たち盲学校は、このような研修の機会を活用し、視覚障害教育の指導の専門性という伝統を継承し、在籍する幼児・児童・生徒が様々な困難さに対応できる学びの場として頼れる場所として在り続けていく所存でございます。

さて、視覚障害教育の指導について高い専門性を有することは、盲学校が盲学校である所以ではありますが、一方で、盲学校の伝統を継承することとは、指導の専門性だけを継承することではありません。柔道の創始者である嘉納治五郎氏は「伝統とは形を継承することと言わず、その魂を、その精神を継承することと言う」という言葉を残しております。

明治11年に日本初の盲学校が京都府に誕生した以降、盲学校に在籍する子供たちが社会で生活していく中には、様々な困難もありました。しかし、そうした状況を改善し、少しでも子供たちがよりよく社会で生活できるようにしていくために、教員や保護者、そして周囲の大人が力を合わせ何ができるかと模索しながら尽力してきました。そうした想いも継承していくことが、盲学校の伝統を継承することだと思います。

二学期も引き続き、保護者の皆様方をはじめ、地域の皆様方、関係機関の皆様方と本校の教職員一同が、本校の幼児・児童・生徒の健やかな成長や豊かな生活のためにという想いを共有しながら、ともに教育活動全体のさらなる充実・改善に取り組んでいければと思います。どうぞ、よろしくお願いいたします。